

【県事業】サケの遡上しやすい環境づくりに向けた 石組み魚道整備工事について

一級河川稚児清水川には、農業用水を取水するための太田堰が築造されています。堰は、高さ約1.4mのコンクリート製固定落差部（固定堰）の上に農繁期のみ起伏するラバーゲート（起伏堰）を設置した2段構造となっており、起伏堰を倒伏しても固定堰がサケの遡上を妨げています。

サケの遡上しやすい環境への配慮を県に要望した結果、県営事業として、老朽化しているラバーゲートの改修工事に合わせ、専門家である日本大学工学部の安田陽一教授の監修のもと、周辺環境に配慮した石組み魚道の整備工事が行われることになりました。

1. 石組み魚道工事の概要

- ・ 構造 自然石の組み合わせによる斜路構造
延長 10.96m、天端幅 3.0m
- ・ スケジュール 12月中旬（1週間程度）
- ・ 工事費 18,400千円（見附市負担額 4,600千円）



太田堰(下流より。中央が固定堰による落差)

2. 注目ポイント

地元小学校に対し、安田教授による出前授業を実施（県長岡農林振興部主催）

- ・ 対象となる小学校は、見附第二小学校、上北谷小学校の2校
- ・ 12月11日に上北谷小学校を会場に実施

